

本時のねらい

自分がリコーダーで演奏した曲とコード進行を組み合わせ、オリジナルの曲を創ることができる。
オリジナルの曲の良さや工夫を友だちに紹介する PR 文を作成することができる。

本時における 1 人 1 台端末の活用方法とそのねらい

自分が演奏したリコーダーを音楽制作ソフト（GarageBand）に録音して、コードと合わせ、オリジナルの曲を創る活動を通じて、個々の創造性や発想力を引き出すことをねらった。
創作した自分の曲の PR を学習支援ソフト（ロイノート）でクラス全員と共有し、活発な交流につなげることもねらった。
子どもたちが音楽を聴きだけでなく、「自分も音楽の作り手になれる」という新たな気づきを得ると共に、友だちの作品を繰り返し聴き合うことで、その良さや工夫などを交流することをねらった。

活用した ICT 機器・デジタル教材・コンテンツ等

・イヤホン ・音楽制作ソフト（GarageBand） ・学習支援ソフト（ロイノート）

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT 活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○本時のめあて・流れを確認し、学習の見通しを持つ。 「オリジナルの曲の良さや工夫を友だちに紹介する PR 文を作成することができる。」 ○これまで制作したオリジナルの曲をより良くするために、見直すポイントを確認する。 【写真 1】 	<ul style="list-style-type: none"> ・大型テレビを使い、本時の流れや見直すポイントを説明する。
展開 (35分)	<ul style="list-style-type: none"> ○音源の録音が終了している児童は、音楽制作ソフト（GarageBand）のコード進行と合わせる作業を行う。 ○グループの友だちに録音した演奏を聴いてもらい、作品をより良くするための工夫や改善点を話し合って修正を行う。 【写真 2】 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が演奏したリコーダーの音源の録音ができている児童は、音楽制作ソフト（GarageBand）に録音するよう伝える。 ・音楽制作ソフト（GarageBand）に録音する。 ・進捗状況に応じて、同じ進捗のグループに分けて作業させる。 ・作品を聴く際はイヤホンを使用する。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○学習支援ソフト（ロイノート）で曲の良さ工夫を紹介するための PR のワークシートを作成する。 ○完成した PR は提出箱に提出し、クラス全員で共有する。 【写真 3】 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援ソフト（ロイノート）で録音した作品の PR を作成する。 ・ロイノートの共有機能を活用することで、クラス全員の作品を瞬時に共有でき、活発な交流へつなげる。

1 人 1 台端末を活用した活動の様子



写真 1：本時のめあて・流れを確認し、学習の見通しを持っている場面。



写真 2：完成した曲を、グループの友だちに聴いてもらいより良い工夫や改善点を話し合っている場面。

自分のPRポイント

私はオーケストラをイメージして弦楽器や木管楽器などの楽器を使いました。シンバルは普通のシンバルがなかったのでドラムのシンバルを使って工夫しました。音楽の授業中に友達に聞いてもらおうとバイオリンの音が大きくてリコーダーの音があまり聞こえにくいかもとコメントをもらったのでバイオリンとシンバルの音を少し小さく調節しました。

写真 3：学習支援ソフト（ロイノート）で自分の作品の PR を作成した成果物。

児童生徒の反応や変容

- ・リコーダーの演奏が苦手な児童も、自分のペースで音楽科の授業中や休み時間を使い練習を積み重ねながら、最後までひとりで自分の演奏を録音することができた。
- ・制作した曲を友だちに聴いてもらい、より良くするための工夫などを話し合うことで、どの児童も曲のアレンジが上達していた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

- ・リコーダーの実技テストを音楽制作ソフト（GarageBand）に録音することで、リコーダーの演奏が苦手な児童も何度も挑戦でき、最後まであきらめずに取り組むことができた。
- ・リコーダーの演奏を録音するだけでなく、自分でリコーダーのハーモニーを引き立てるアレンジをする課題に取り組ませたことで、どの児童もクリエイティブな作品を創ることができた。